2017年度情報メディア専門ユニット I SVG で始める Web Graphics の成績評価表

1 採点区分と評価

情報メディア専門ユイット I SVG で始める Web Graphics の成績評価のための基準を示すものである。採点の項目と配点は次のとおりである。

- 毎回の演習内容の評価 (50 点) 演習課題の結果があるノートの内容を1回につき5点満点で評価する。必須課題だけの結果 では最高で3点となる。
- 最終レポート(40点)
 評価基準は後述のルーブリック評価を参照のこと。基準点は30点。
 レポートの内容は次のいずれかとする。
 - SVG または HTML を利用したアプリケーション。JavaSCript を用いたものにすること。単に、ページを手打ちしただけのものは避けること。表紙も含めて最低 25 ページ 以上あること
 - 演習内容をまとめたもの。例として挙げる図形などはテキストのものと類似していてはいけない。最低ページ数は30ページ以上あること。
- 最終発表 (20 点)
 評価基準は後述のルーブリック評価を参照のこと。基準点は 10 点。

評価点の合計は110点である。60点以上を合格とする。また、S評価は90点以上を予定している。

2 提出期限等

提出物等に関する注意は次のとおりである。

- 演習の最終回 (7月25日) は最終レポートに関するプレゼンテーションを各自が行う。発表の順番は当日決定する。
- 演習終了後に演習のノートをすべて提出する。
- 最終レポートとプレゼンテーション資料は7月25日中にメールに添付の形で提出すること。

提出されたノートや成績評価に関するルーブリック評価表は試験期間終了日(8月4日)までに返却を終了する予定である。返却開始日は後日、メーリングリストで連絡をする。

3 発表までの演習の内容

7月4日、11日、18日の演習は最終発表に向けた準備を行う。新しい課題はない。また、今までの課題のノートの追加を行ってもよい。演習終了後にノートを提出すれば提出時における各回の演習内容の評価点をつけて返却する。

情報メディア専門ユニットI(演習)

最終評価

ノートの評価 (50 点)				
評価 項目	優れている	標準的	改良の余地あり	
4/18 5 点	□与えられた課題のほとんどを行っている。□結果が正しい□考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0
4/25 5 点	□与えられた課題のほとんどを行っている。□結果が正しい□考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0
5/9 5 点	□与えられた課題のほとんどを行っている。□結果が正しい□考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0
5/16 5 点	□与えられた課題のほとんどを行っている。□結果が正しい□考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0
5/23 5 点	□与えられた課題のほとんどを行っている。□結果が正しい□考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0
5/30 5 点	□与えられた課題のほとんどを行っている。□結果が正しい□考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0
6/6 5 点	□与えられた課題のほとんどを行っている。□結果が正しい□考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0

評価項目	優れている	標準的	改良の余地あり	
6/13 5 点	□与えられた課題のほとんど を行っている。 □結果が正しい □考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0
6/20 5 点	□与えられた課題のほとんど を行っている。 □結果が正しい □考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0
6/27 5 点	□与えられた課題のほとんどを行っている。□結果が正しい□考察が十分ある。	□必須課題を中心に行っている。 □結果がおおむね正しい □考察が少し足りない。	□報告の課題が少ない。 □結果が一部正しくない □考察が足りないか全くない。	5 4 3 2 1 0

最終レポートの評価-形式 (15点) 評価 優れている 標準的 改良の余地あり 項目 10 □表紙が独立したページでは 9 ない。 8 □授業名がない。 7 6 □担当教員名がない。 表紙 □表紙に必要事項がすべてあ □表紙に必要事項が一部ない。 5 5 点 る。 □提出日がない。 4 3 □学籍番号がない。 2 □氏名がない。 1 0 □分量が指定量より1割以上 □分量が十分ある。 少ない。 □分量が指定よりわずかに足 □章、節の分け方が適切であ りない。 □章、節の分け方が不適切で 10 ある。 □章、節の分け方が一部不適 9 □図の大きさや内容が適切で 切である。 8 □図の大きさや内容に不要な ある。 7 部分が多くある。 □図の大きさや内容に一部不 □図、表の説明文が内容を的 体裁 6 備な部分がある。 □図、表の説明文が内容がほ 確に表している。 10 5 とんど同じものになってい □図、表の説明文が内容を十 点 4 □図の説明文が図の下にある。 る。 分に表していない。 3 □表の説明文が表の上にある。 2 □図や表の説明文がない。 □図、表の番号が一部正しく 1 □図、表の番号が正しくつい ついていない。 □図、表の番号が正しく付い ている。 ていないか付けていない。 □文体が一部「である調」に □文体が「である調」に統一 なっていない。 □文体が「である調」に統一 されている。 されていない。

評価項目	優れている	標準的	改良の余地あり		
内容 25 点	□作成した作品の制作意図がはっきりと書かれている。 □データをもとにして、ページなどが作成されている。 □データの処理に関して重要な部分のコードの解説がある。 □作品の説明するために十分な図が含まれている。 □付録としてすべてのコードがレポート内にある。	□作成した作品の制作意図の説明が少し曖昧である。 □データをもとにして、ページなどが作成するようにできるところが一部ある。 □データの処理に関して重要な部分のコードの解説が少し不十分である。 □作品の説明するための図が少なすぎるか、多すぎる。 □付録としてすべてのコードがレポート内にない。	□作成した作品の制作意図の説明が明確になっていない。 □データをもとにして、ページなどが作成するようにできるところが多くある。 □データの処理に関して重要な部分のコードの解説がないか、足りない。 □作品の説明するための図が少なすぎるか、多すぎる。 □付録としてすべてのコードがレポート内にない。	10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	

	最終レポートの評価 (内容)-授業内容のまとめ (25点)			
評価 項目	優れている	標準的	改良の余地あり	
内容 25 点				10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

情報メディア専門ユニットI(演習) 第10回(6/27)プレゼンテーション

この回の予習に基づいてグループ内で議論したことや工夫した点について報告する。

グループメンバー学籍番号

評価 項目	優れている	改良の余地あり
発表 技法 (20%)	□はっきりと丁寧に説明していた。 □発表の際に聴衆の反応を確かめていた。 □間の取り方がよかった。 □決められた時間に近い範囲で行った。 □機材の設定や準備がすぐできた。	□説明が途切れた。 □声が少し大きすぎたか小さすぎた。 □発表の際に聴衆の方をあまり見ていない。 □決められた発表時間が長いまたは短い。 □手元の資料やPC画面を見て発表していた。 □機材の設定や準備に時間がかかった。
発表 構成 (30%)	□初めに発表内容に関する概要があった。 □発表内容の順序がよい。 □各構成の部分のバランスが良かった。 □図や表を使い簡潔にまとめられていた。 □引用は適切である。	 □文字だけの発表であった。 □図が見づらい。 □項目の内容の分量にばらつきがあった。 □スライドごとに情報の詳しさが異なりすぎた。 □ページの分量が発表時間に対して少し足りない、または多い。
発表 内容 (50%)	□内容に間違いがなかった。 □図の使い方がよかった。 □SVG または HTML のデモが適切である。 □内容が自分の言葉で述べられていた。 □それぞれの項目の関連性とバランスがよかった。 □発表したいことが十分に説明されていた。 □自分の意見が明確であった。	□内容の説明不足なところがある。 □図が少なくて説明がわかりずらい。 □実際のデモのがない、または少ない。 □内容に関して独自性がない。 □それぞれの項目の関連性が不十分である。 □発表内容の必要性の説明が足りない。